

平成26年度第2回木更津市郷土博物館金のすず協議会会議録

- 1 日 時 平成26年11月4日(火) 午後1時30分～3時
- 2 場 所 金のすず多目的室
- 3 出席委員 委員長 中村 哲
委員 藤浪弘美、荻野敬次、圓谷加陽子、関口 明、
高橋めぐみ
- 4 出席職員 初谷教育長、鹿間教育部長、齊藤教育部次長、今関文化課長
石井館長、平野副館長、稲葉副主幹、伴主査、井上主査、多田主事
- 5 傍聴人数 0名
- 6 報告 (1) 平成26年度上半期事業報告について
- 7 議案 (1) 平成26年度下半期事業計画について
(2) 平成27年度事業計画(案)について
- 8 議事大要

事務局(稲葉)：平成26年度第2回木更津市郷土博物館 金のすず協議会を開催いたします。

本日は委員全員のご出席をいただいております。「木更津市郷土博物館金のすず協議会運営規則第8条」により会議は成立しております。また、「木更津市審議会等の会議公開に関する条例第3条」に基づき、本会議は一般公開となっておりますが傍聴人は0人です。

それでは会議開催にあたり、初谷教育長からご挨拶申し上げます。

教育長：挨拶

事務局(稲葉)：それでは、これより改めまして職員の紹介をしたいと思います。

<職員挨拶>

事務局(稲葉)：それでは、これよりお手元の会議次第に基づき協議会を進行して行きたいと思っております。

本日の会議は、委嘱後第1回目の会議ですので、委員長、副委員長がまだ決まっております。

事務局提案として教育部長が仮議長を勤めさせていただき、3の正副委員長選出を行いたいと思っておりますが、いかがでしょうか？

委員：異議なし。

事務局(稲葉)：異議がないようですので、教育部長に仮議長を務めていただきます。

仮議長(教育部長)： それでは、委員長・副委員長が選任されるまでの間、仮議長を勤めさせていただきます。

お手元の次第3.正副委員長の選任についてご審議願いたいと思います。
この件につきまして、まず事務局より説明を求めます。よろしくお願ひします。

事務局(稲葉)： 本議題は「木更津市郷土博物館金のすず協議会運営規則 第2条第2項」の規定により、委員長・副委員長の選出を求めるものです。委員長・副委員長の選出をお願いいたします。

仮議長(教育部長)： ただ今、事務局から説明がありました。みなさんお手元の資料の21 ページに今事務局の方から説明がありました、会議運営規則が載っております。その第2条第2項「委員長及び副委員長は、委員の互選により定める」という規約になっております。この規定に基づきまして、互選をしていただきたいと思いますが、いかがいたしましょうか？

荻野議員： はい、議長。

仮議長(教育部長)： 荻野さん。

荻野議員： やはりこういう事業は経験が必要じゃないかなと思ひまして、引き続き中村委員に委員長、藤浪委員に副委員長をお願いしたいと思ひますけど、いかがでしょうか。

仮議長(教育部長)： 今、荻野委員より中村委員に委員長、藤浪委員に副委員長というご提案がございましたけど、他にありますか。

ないようですので、ただ今荻野委員から推薦がありました、委員長に中村委員、副委員長に藤浪委員、この件についておはかりしたいと思います。いかがでしょうか。＜拍手＞はい。異議なしと認めます。委員長は中村委員、副委員長は藤浪委員に決定させていただきます。よろしくお願ひいたします。以上をもちまして、仮議長をおろさせていただきます。ありがとうございました。

事務局(稲葉)： それでは、ただ今選出されました、中村委員長、藤浪副委員長、ご挨拶をお願いいたします。

中村委員長： 挨拶

藤浪副委員長：挨拶

事務局（稲葉）：ありがとうございます。それでは、委員長には、議長として、これからの議事進行をお願いいたします。

議長： それでは、議事に入りたいと思います。始めに、報告1の「平成26年度上半期事業報告について」事務局に説明を求めます。

事務局（平野）：(説明する)

委員長： ありがとうございます。ただ今の報告に対して何かご質問、ご意見はございますか？

これだけ事業やっているから、ただやりましたでなく、マスコミにこれを配ったらどうですか？ これだけやって、これだけの人数が入って頑張っていますってことを細かく数字出して表に出せばいい。それで、声を出すときに必ず今年度はこういうことを目玉に、博物館のような管理部門についてはこういう目玉で、展覧会についてはこういう目玉です、何々についてはこれが目玉ですってことをアピールして、年度末になったら出来高まで自己採点して出す。そこまでやったら面白い。これ出すだけで、もうみんな見る人が見ればエー！って腰抜かすくらい立派だ。きちんと数字載せて、批判にも耐えますっていう潔さを出せば話題になるんじゃないですか？ それともう一つ、表の事業はいっぱいやっているけど、裏の収集してきて、それを研究したり、保存管理しているその数字出てきてないが、それはどうなっていますか？

事務局(井上)： 今のお話ですと、資料調査とかそちらの方の話でしょうか？

委員長： それもあるが、結局、調査・整理・保存・修理して、それで展覧会してのローテーション。それをただ展覧会だけ言ってるだけで、ほかの部分はどうなっていますか。

事務局(稲葉)： お答えいたします。調査関係についてはいろいろな情報を市民から得たりした場合に、即座に対応出来るように何とか頑張っております。

今年は井上学芸員が保存研修を受講しました。ちょうど企画展の前で忙しい時期だったんですが、無理をして行きました。その研修の結果を、博物館の中

の職員会議等で発表して、こういうことが必要なんだということを複数の人間が言うことによって、みんながなるほど思ってくれるところがありますので、そういうところで、職員の意識を改めていこうというふうにしております。

中村委員長： はい。みなさん一生懸命やって大変だということは十分わかっていて、あえて言わせていただいたんですが、理想論かもしれません。

藤浪委員： 古いお宅でも、あるいは倉庫を壊したとか……

これは博物館だって、今まで色々なところで何回も話は聞いていると思いますが、こういうものが出てきたけれども博物館は受けてくれるか。寄贈とまでは言いませんが、邪魔だから寄贈でも寄託でも、色んなこと言ってるんですけど。或いは、そんなに古い家じゃなくても、趣味で一生懸命集めてた主人が亡くなったからということで、どうしたらいいかなんて話がありますが、今博物館の方ではそういう話があったらみんな受け取るんですか？

事務局(稲葉)： 原則、こちらのほうで一度調査をさせていただいて、それを博物館で受け入れて確かにいい物かどうかということを確認させていただきます。というのは、過去にお断りした例で、これは骨董屋でものすごく高い値で買って来た物なんだと、すごく良い物なんだと。ただし、物だけあってその来歴がまったく分からないんですね。そういう物もありましたので、本当に木更津市の、木更津の郷土に関係するものかどうかというものを確認した上で、館の中で協議をして、その上で受け入れる、受け入れないかを決めております。ただ、そういうお話があったときは、まずは1回行って、物をまず見せていただこうというふうには思っております。

中村委員長： これは大変なことですずっと延々に続くことだから。二つに分けていくと、今既にこの中で収蔵してる作品をどう整理して、どう研究して、どう展覧会に結び付けていくかっていう大きな柱が一本あると思う。それから、今後は研究の成果なり、また突然宝物が出てきたりする。新たに収蔵したり、新たに展覧会にもっていくっていう、そういう大きな包みのもう一個の話がある。それ2つ、一緒には出来ないから。私が言ったのは前のほうの柱です。これだけの資料があって、これだけの人数とこれだけの予算で、出来ないことわかっています。そうすると、何かシステムを考える。これを見ていたら「博物館でお花見を」で清和の柔道部と提携してるとか。特に大学と提携して協力してもらおう。大学の発表の場にするとかフリーに使わせて。それから、先ほど稲葉さんが言ったように外の人入れると、我が物顔にする人が往々にいるってこともわ

かっています。そうならない為には、やはり大学を主体にやろうとか、博物館実習の人たちを使うとか、そういうような意味で、博物館の学芸員が監督的な立場で彼らを使ってやるとか、そういう形にしない限り、少なくとも今後、外に発展していく部分については控えるにしても、既に中に入っていて、何とかしないと、これが結局がんになる。だから、そのこのところを今のうちに切り替えて、10年ぐらいの間にある程度を目安立てておかないと、20年、30年ってなるたびに絶望的なことになる。ただ、今の人数と予算じゃ出来ないから、何か新しい協力者なり、協力体制なりを考えて、色々なメリットも与えないと息切れする。次々とスタッフが変わっていくからその辺をちょっとやってみれば何とかなるのではないかな。

他に、何かございますか？

藤浪委員： 実は、あとで見てもらおうかと思ったんですが、来週再来週 14、15、16 日で、恒例の西上総文化展を開きます。会員にいろいろ出していただけてますが、私がやはり毎年借りている伊藤亀之助さんの所蔵品、伊藤・・・展ですよ。毎年相当なものを出していただけていますが、10 点ほど借りて、今度の文化展に並べますが、その中で明治 5 年の木更津県の漁業の規則。ある先生にも見ていただいたら、いろいろ規則が、一号二号三号ってずっと、十何号まで書いてあります。これが今博物館が 400 年展やってるから、もうちょっと早く分かれば値打ちがあるなあと思って。明治 5 年のものでもう一つが木更津県の考察が出てきました。

代が変わって、奥さんが、もう年取ってきましたからどんなふうにしたらいいかしらなんて、たまたま相談受けたので、それだったら博物館の人なり、何なりに見てもらって、三浦先生なんかが見て調べて、この家にはこういう所蔵品があるってはっきりと書いてもらえるから、そうすればお宅にどういふものがあるか分かるから、考えたほうがいいですよって言うておきました。だいぶ気持ちがありますからね。特に木更津県のは、大分まだあります。ですから、これは木更津でも一番貴重品だと思います。ただの普通の旧家の品物と訳が違います。博物館のほうにどうかと思って、今日はちょっとお話をさせていただきました。

中村委員長： ありがとうございます。大変ですね、いっぱい宿題が出て。そういう物のための新たな情報なり資料なり、提携も藤浪先生のところとか色々なところとあるから、協力してもらうためにも、そういう人的な、組織的なことも、資料的なことも全部、もう一回立て直した方がいいかも知れない。そうしないと、新たに展開していくのが身動きできなくなるか、やる気なく

なるか みたいな雰囲気になると、人間って見る気しなくなっちゃって、もうどうでもいいやってなっちゃうから、ちょっと1回ストップしてでもいいから、整理し直してみたほうがいいかなという感じはちょっとしますね。

まだ8年目に向かつての4期目ですから、10年ぐらいでその辺がきっちり見通しが立っていれば大丈夫。そこをふっちゃうと、もう20年は、更に30年は、更にとって。もうそこまでいったら絶望ですね。そうならないように、大変ですけど、頑張ってくださいと思います。

それじゃ、次に移らせていただきます。議題として、平成26年度の下半期の事業計画、それから平成27年度事業計画、両方併せてお願いいたします。

事務局(平野)： 説明

中村委員長：はい、ありがとうございます。それではただ今の事に関してご質問ご意見はございますか。

では私からひとつ。フィールドミュージアムってありますけど、これはどういう計画を立てているんですか。

事務局(稲葉)： 太田山全体と博物館、この山を使わない手はないということで、太田山で食べられる植物を春に、今年度から初めているんですが、こういう草は食べられますということをやって、実際それのいくつかを裏の畑で栽培していきまして、それを天ぷらにして食べていただくというようなこと。それから、太田山公園自体が戦争遺跡でもありますので、太田山を知る講座の中で、太田山の中をまわって植生を調べるのもそうなんですが、戦争遺跡についても調べるとそういったことで、フィールドミュージアムというようなことで活動しております。

中村委員長： 非常におもしろいですね。何度か私どももやって失敗してることもあるんですが、屋内だけで、閉じ込めておくといろんな意味で限界があるんで、1回表へ出ていくことも必要。屋内なら協力できないけど、屋外なら協力しようという人もいるし、他のところのシンポジウムで発表したことがあるんですが、鎌ヶ谷あそこの跡地、国指定になりましたから、議会で良くホースセラピーが話題になっていて、あそこがホースセラピーの馬の牧場ですから、そこで、馬を育成して、まあ大きな馬は無理だとしてもポニーかなんかで。もし身障者の人とか障がいの人たち、老人会とかいろんな人の協力を仰いで、それがひとつ。それからその自然を生かして、漢方になるようなものを栽培してそれを売ればいいじゃないですか。そうすれば野草もできるし、いろ

んなことができれば、ここだけじゃなくて、外へ行けば倍じゃなくて3倍ぐらいの効果がでるんじゃないか。内容的に、ある意味ではさっきは内部的な既に実績のあるところを整理したらどうですかということがひとつ、それから外へ出て行くときはまず空間的な問題を処理しないと、人事的なことを処理しないと、うって出れません。そのときに、もちろんボランティアとか色々なところの協力を仰いで出て行けば。

公園が一番お金を持っているんです。都市公園の予算を。そういう意味で公園とタイアップする。富津の突端の半島、あれは都市公園として大きいから県です。これくらいだとたぶん市だと思います。そしたらものすごくお金持っているんです、歴博もそうでしたし、中央博物館にあるところもそうだし、みんな都市公園。ただ都市公園の中にはコンクリで固めちゃうっていう発想のが伝統的にあるんです。自然を壊しちゃう。私どものところは自然をそのまま残していけばいいんです。最近でこそそういう発想になってきたけど、ただ都市公園というとコンクリで固めちゃうって人工的にしちゃう。そういうのよりここは唯一都会に近くて、自然が残って、今までにないようなのが出来るんじゃないかな。県立クラス、国クラスは金で、動いているようなところがあるけど、こういうような下からの盛り上がりで、お小遣い、ボランティアに払う日当が得られればね、掃除する人とか。意外に野草とか漢方とか結構ためになると思う。そういうようなことも含めて、何か検討していただければ、おもしろいなど。叶わぬ夢を押し付けているみたいですけど、ぜひここで、検討していただければおもしろいと思います。

荻野委員： 27年度の下期の事業でもいいんですが、市民絵画展とかそういったものを調整してもらえませんかでしょうか。文化協会とか色々な団体があるでしょうけど、折角なんで、この施設を有効に使うという意味でもそろそろ、絵画展、どういった内容になるかはわかりませんが、子どもの絵画展なのか、市民絵画展をやっているんですが、ぜひこの施設を使って調査研究していただき27年の下期の資料として、検討していただけないでしょうか。

中村委員長： はい おもしろいですね、総合博物館ですから、美術展やったりいいわけですから、美術が弱いから、自分でやるって大変なんです。知識もいるし人脈もいるから、人脈は大丈夫でしょうが、あれをやったらどうですか。木更津十景 木更津を写生地にして、学校なりいろんな人に書いてもらって古いところも新しいところも、昔の対比した写真も含めて対比した展覧会、おもしろいですよ。そうすると、けっこうクレヨンとかクレパスとか、そういうところも企業がのってきますから、写真展にもってくる昔の木更津。それ

で、テーマを与えて、小学生から大人まで、珍十景じゃなくても珍百景でも、そういうような形でなんかやると非常におもしろいと言えますね。それで、それっきりで終わるんじゃないくて、それは毎年恒例みたいなことをやって、その間に荻野先生がいったように、名作展みたいなものも、展覧会は単発で終わっちゃだめなんですね。一年の中での単発もだめだし、10年単位での単発もだめだし、やっぱりこう、継続していかないと、浸透しないから、今の美術展の企画って非常におもしろいと思います。

藤浪委員： 荻野委員の会は文化協会には入っているんですか。

荻野委員： いいえ、そういう組織とはまた違ったんですけども、結局もし具体的にするとすれば、文化協会に声をかけるとか、入れば何月何日どこの場所とかってみんな心配してくれる。折角展示施設があるんで、確か収蔵している絵も結構あると思いますが、そうでなく、一般の人の作品を展示するのが意義があるんじゃないかと思います。ちょっと調査研究していただけないかと申しあげました。

中村委員長： はい ありがとうございます。一応検討してみたらおもしろいと思います。

石井館長： 今の荻野委員からたいへん貴重なご意見ありがとうございました。来年度下半期というお話ということでして、予算の関係もございますけれども、調査研究いたしまして、今後の展示の内容に活かしていきたいと思います。

中村委員長： 他にございますか。ないようでしたら、これで事務局へお返ししたいと思います。

事務局（稲葉）： 本日は委員のみなさまにはご多忙のところご出席いただきまして誠にありがとうございました。今後とも当館の運営業務につきましてよろしくご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。また次回の協議会は来年度4月を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それではこれもちまして、平成26年度第二回木更津市郷土博物館金のすず協議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

